

特集 令和2年国勢調査結果

令和2年10月1日を調査期日として、令和2年国勢調査が行われました。国勢調査は、我が国の最も基本的な統計調査で、国内の人口、世帯、産業構造等の実態を明らかにするため、統計法に基づく基幹統計調査として実施されています。第1回調査が大正9年に行われて以来、5年ごとに実施され、今回は21回目（100年目）の調査となりました。その調査結果は、各種行政施策を進めるための基礎資料として活用されているほか、企業の経営管理や大学の学術研究など幅広く利用されています。

国勢調査は、住民票等の届出場所に関係なく、調査期日において常住している（普段住んでいる）場所で調査を行います。今回の特集に当たり、葛飾区の人口と世帯に注目して取りまとめを行いました。

1 人口45万3,093人、世帯数21万5,948世帯

令和2年国勢調査による葛飾区の人口は45万3,093人で、平成27年に比べ1万180人（2.30%）増加した。世帯数は21万5,948世帯で、平成27年に比べ1万4,568世帯（7.23%）増加した。

表1 人口と世帯数（平成27年～令和2年）

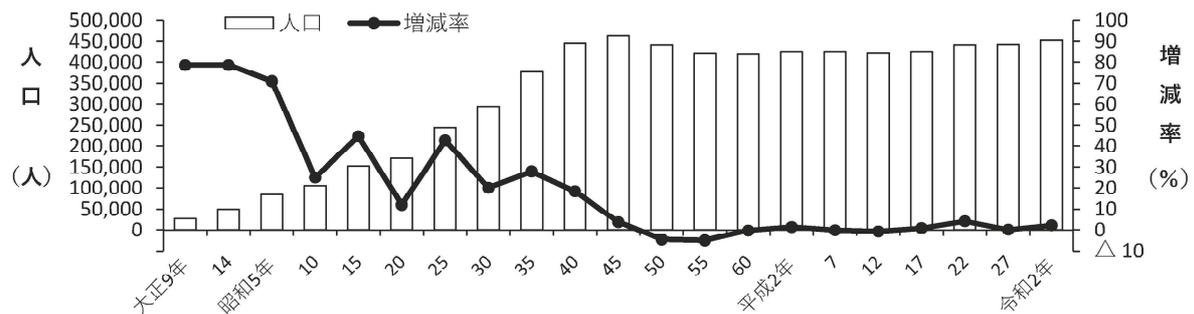
単位：人、世帯、%

	令和2年	平成27年	増減数	増減率
人口	453,093	442,913	10,180	2.30
世帯数	215,948	201,380	14,568	7.23

2 人口と増減率の推移

葛飾区の人口は、大正9年から昭和45年まで増加し続け、昭和45年の46万2,954人をピークに、その後は人口減少に転じ、42万人程度の水準で推移していた。平成17年以降は人口増加傾向にあり、令和2年は45万人を超えている。

図1 人口と増減率の推移（大正9年～令和2年）



3 年齢別人口

葛飾区の人口を年齢3区分別にみると、0～14歳人口は5万1,560人、15～64歳人口は28万7,980人、65歳以上人口は11万3,553人となっている。平成27年に比べ、0～14歳人口が765人（1.46%）減少、15～64歳人口が6,463人（2.30%）増加、65歳以上人口が4,482人（4.11%）増加している。

総人口に占める15～64歳人口の割合は63.56%であり、平成27年から変わっていない。総人口に占める65歳以上人口の割合は25.06%であり、平成27年を0.43ポイント上回っている。

東京都（区部）と比較すると、総人口に占める0～14歳人口の割合は東京都（区部）を0.48ポイント上回り、総人口に占める15～64歳人口の割合は東京都（区部）を4.06ポイント下回っている。

表2 年齢3区分別人口（平成27年～令和2年）

単位：人、%

	令和2年 (総人口に占める割合)	平成27年 (総人口に占める割合)	増減数	増減率	(参考)令和2年東京都(区部) (総人口に占める割合)
0～14歳	51,560 (11.38)	52,325 (11.81)	△765	△1.46	1,060,707 (10.90)
15～64歳	287,980 (63.56)	281,517 (63.56)	6,463	2.30	6,581,332 (67.62)
65歳以上	113,553 (25.06)	109,071 (24.63)	4,482	4.11	2,091,237 (21.49)

図2 年齢3区分別人口構成比の推移（平成27年～令和2年）

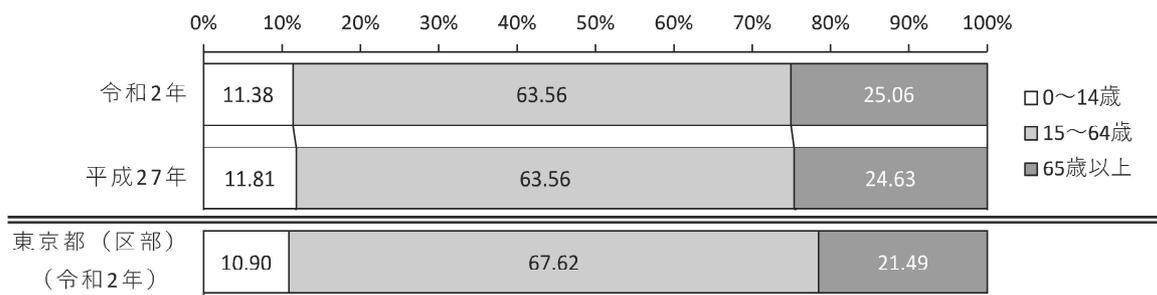
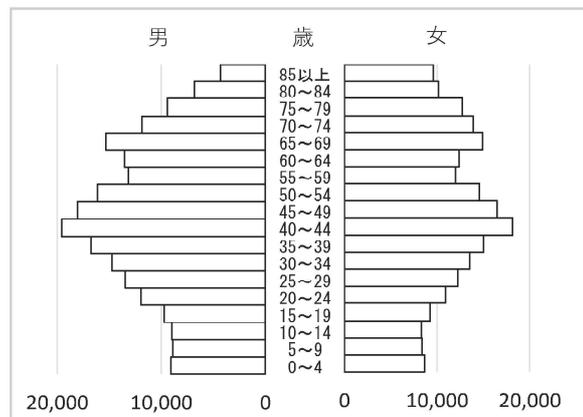
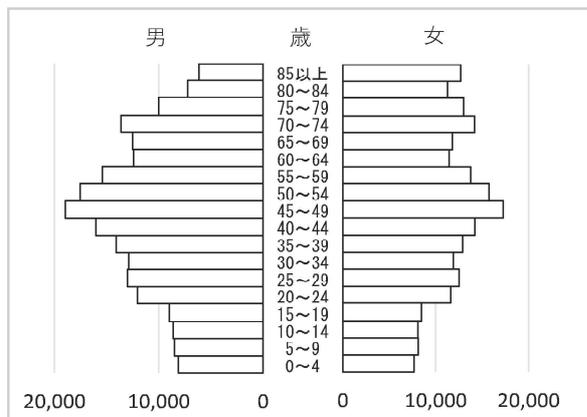


図3 人口ピラミッド（平成17年～令和2年）

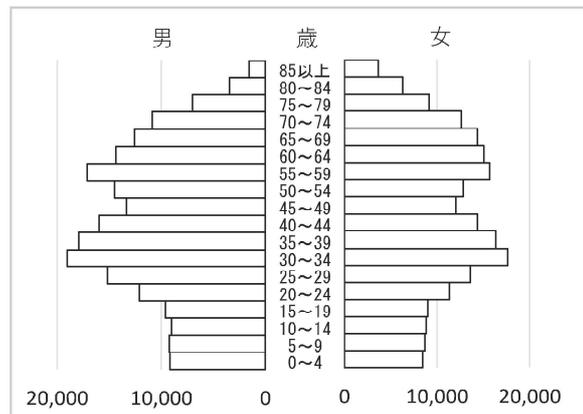
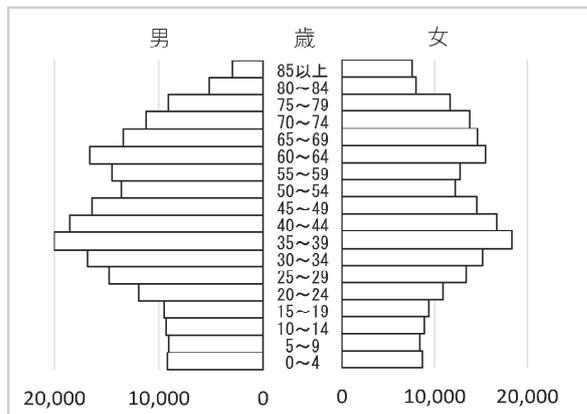
令和2年 453,093人

平成27年 442,913人



平成22年 442,586人

平成17年 424,878人



8 どうけいひろば

4 小地域別人口

葛飾区の人口を小地域別にみると、堀切地区が2万7,681人と最も多く、次いで青戸地区が2万7,615人、亀有地区が2万6,303人の順となっている。

平成27年からの人口増減をみると、増加数は新宿地区が2,588人(20.28%)と最も多く、次いで小菅地区が1,308人(9.92%)、青戸地区が1,221人(4.63%)の順となっている。

表3 小地域別人口(令和2年)

単位：人

	町名	人口
1	堀切	27,681
2	青戸	27,615
3	亀有	26,303
4	東新小岩	25,859
5	東金町	24,166
}		
26	東堀切	8,080
27	宝町	7,160
28	お花茶屋	6,320

図4 小地域別人口増減(平成27年～令和2年)

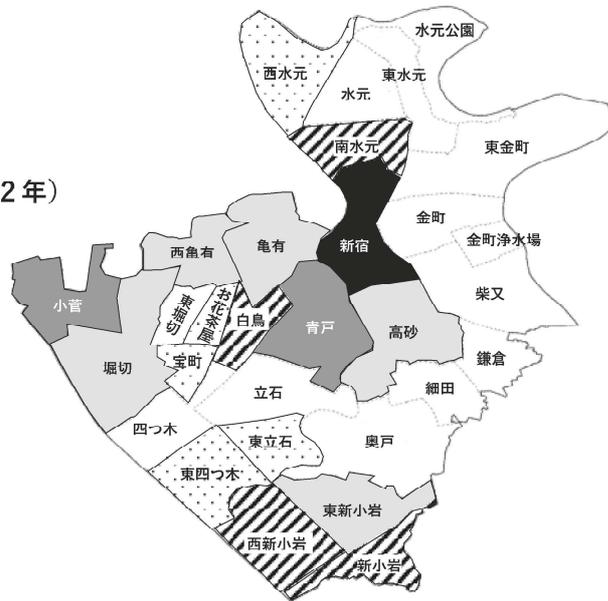
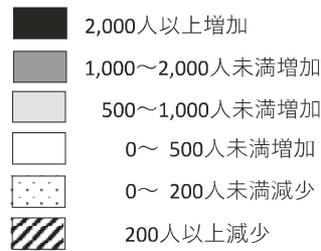


表4 小地域別人口増減(平成27年～令和2年)

単位：人、%

	町名	増減	増減率
1	新宿	2,588	20.28
2	小菅	1,308	9.92
3	青戸	1,221	4.63
4	亀有	861	3.38
5	堀切	820	3.05
}			
26	南水元	△260	△1.90
27	西新小岩	△326	△1.98
28	白鳥	△334	△2.74

5 小地域別65歳以上人口の占める割合

葛飾区の小地域別人口を更に年齢別で見ると、総人口に占める65歳以上の人口の割合が最も多い地区は西新小岩地区(29.32%)で、次いで西水元地区(28.38%)、宝町地区(27.74%)となっている。

反対に65歳以上の人口の割合が最も低い地区は小菅地区(16.55%)で、次いで東新小岩地区(19.99%)、東水元地区(22.12%)となっている。

表5 小地域別65歳以上人口の占める割合

(令和2年) 単位：人、%

	町名	総人口	65歳以上人口	総人口に占める割合
1	西新小岩	16,124	4,728	29.32
2	西水元	12,190	3,460	28.38
3	宝町	7,160	1,986	27.74
4	南水元	13,458	3,715	27.60
5	堀切	27,681	7,634	27.58
}				
26	東水元	9,197	2,034	22.12
27	東新小岩	25,859	5,168	19.99
28	小菅	14,493	2,398	16.55

注：本ページ内各表(表3～表5)の小地域別順位は、金町浄水場及び水元公園を除く。

6 外国人人口

葛飾区に在住する外国人は1万9,229人で、平成27年と比べ6,090人(46.35%)増加している。総人口に占める割合は4.24%で平成27年から1.27ポイント増加している。

東京都と比較すると、令和2年の総人口に占める割合は東京都(全体)を0.8ポイント上回り、東京都(区部)を0.1ポイント上回っている。

令和2年の外国人人口を国籍別にみると、中国が1万294人(53.53%)を占め最も多く、次いで韓国・朝鮮2,960人(15.39%)、フィリピン1,394人(7.25%)となっている。

表6 外国人人口(平成27年～令和2年)

単位:人、%

	令和2年	平成27年	増減数	増減率	(参考)令和2年東京都	
					全体	区部
外国人人口	19,229	13,139	6,090	46.35	483,372	403,171
総人口に占める割合	4.24	2.97	1.27	-	3.44	4.14

表7 国籍別外国人人口(令和2年)

単位:人、%

	中国	韓国・朝鮮	フィリピン	ベトナム	ネパール	その他
国籍別人口	10,294	2,960	1,394	1,023	753	2,805
構成比	53.53	15.39	7.25	5.32	3.92	14.59

図5 外国人人口の推移(平成17年～令和2年)

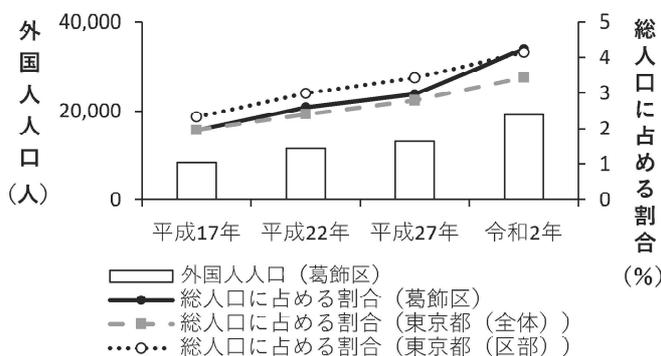
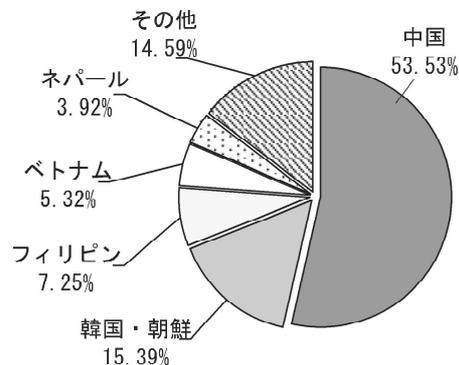


図6 国籍別割合(令和2年)



7 世帯数及び1世帯当たり人員の推移

葛飾区の総世帯数は昭和55年の14万3,018世帯以降、一貫して増加している。

一方、一般世帯の1世帯当たり人員は昭和30年の4.64人以降、一貫して減少しており、令和2年は2.10人で、平成27年から0.1人減少している。

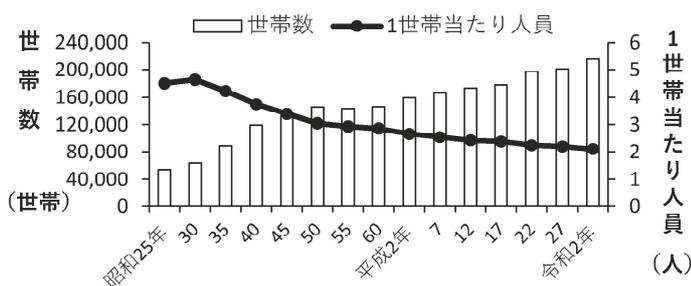
表8 1世帯当たり人員

(平成27年～令和2年)

	令和2年	平成27年
人口	453,093	442,913
世帯数	215,948	201,380
1世帯当たり人員	2.10	2.20

図7 世帯数及び1世帯当たり人員の推移

(昭和25年～令和2年)



10 どうけいひろば

8 一般世帯の家族類型

一般世帯を家族類型別にみると、単独世帯が9万3,974世帯（43.57%）、核家族世帯が10万9,139世帯（50.60%）で全体の94.17%を占めている。核家族世帯の中では、夫婦と子供から成る世帯が最も多くなっている。

図8 一般世帯の家族類型別構成比（令和2年）

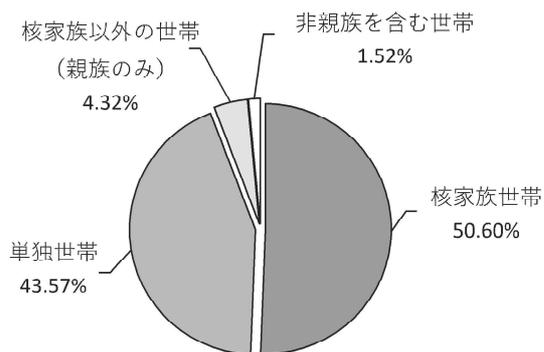


表9 家族類型別一般世帯数（令和2年）

単位：世帯、%

家族類型	世帯数	構成比
総数（不詳を含む）	215,709	100.00
単独世帯	93,974	43.57
親族のみの世帯	118,454	54.91
核家族世帯	109,139	50.60
夫婦のみの世帯	36,349	16.85
夫婦と子供から成る世帯	52,737	24.45
ひとり親と子供から成る世帯	20,053	9.30
核家族以外の世帯	9,315	4.32
非親族を含む世帯	3,276	1.52

9 23区の状況

23区の人口状況を見ると、最も人口が多い区は世田谷区（94万3,664人）で、葛飾区は9番目（45万3,093人）である。年齢別人口で年少人口の構成比は、最も高い区は中央区（13.65%）で、葛飾区は9番目（11.38%）である。外国人人口は、最も多い区は江戸川区（3万1,840人）で、葛飾区は10番目（1万9,229人）である。

世帯状況を見ると、世帯数は、最も多い区は世田谷区（49万2,065世帯）で、葛飾区は11番目（21万5,948世帯）である。1世帯あたり人員及び家族類型が核家族世帯の構成比は、葛飾区がそれぞれ2.10人、50.60%で1番目である。

表10 23区の状況（令和2年）

人口

	区	人口
1	世田谷	943,664
2	練馬	752,608
3	大田	748,081
...
9	葛飾	453,093
...
21	台東	211,444
22	中央	169,179
23	千代田	66,680

年少人口の構成比

	区	年少人口の構成比
1	中央区	13.65
2	千代田区	13.46
3	港区	13.33
...
9	葛飾	11.38
...
21	豊島区	8.78
22	中野区	8.45
23	新宿区	8.36

外国人人口

	区	外国人人口
1	江戸川	31,840
2	足立	29,791
3	江東	28,682
...
10	葛飾	19,229
...
21	文京	8,457
22	中央	7,385
23	千代田	2,724

世帯数

	区	世帯数
1	世田谷区	492,065
2	大田区	400,164
3	練馬区	374,842
...
11	葛飾	215,948
...
21	荒川区	112,009
22	中央区	92,533
23	千代田区	37,011

1世帯あたり人員

	区	1世帯あたり人員
1	葛飾	2.10
2	江戸川	2.09
3	練馬、足立	2.01
...
...
21	豊島	1.64
22	渋谷	1.63
23	新宿	1.57

核家族世帯の構成比

	区	核家族世帯の構成比
1	葛飾	50.60
2	江戸川	50.46
3	江東	49.94
...
...
21	豊島	32.94
22	渋谷	31.61
23	新宿	29.78